7月26日のレッスン

マリア——忠実な母

鍵となる聖句：「しかし、マリアはこれらのことをすべて心に留め、思いめぐらしていた。」
ルカによる福音書 2章19節

選読箇所：
ルカ1:26-56、2:15-19、ヨハネ2:1-5、19:25-27

今日の学びは、カエサル・アウグストゥスの命じた人口調査のために集まった人々で溢れかえるベツレヘムから始まります。その群衆の中には、ナザレの大工ヨセフと、身ごもっていた婚約者のマリアがいました。彼らはローマの勅令に従うため、長い道のりを旅し、埃っぽい道を歩き、混雑した町で宿を探していました。ルカ 2:1-3

その近く、ベツレヘムからそう遠くない野原で、羊飼いたちのもとに神の御使いが現れ、救い主、主キリストの誕生を告げました。　「すると、天使は彼らに言った。『恐れることはない。見よ、わたしは、すべての民に大きな喜びをもたらす良い知らせを告げ知らせる。きょう、ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方は主キリストである。』」天使のメッセージには、神を賛美する天の軍勢が伴っていた。ルカによる福音書 2章8-14節

その記述は次のように続きます。「天使たちが彼らを離れて天に帰ると、羊飼いたちは互いに言っ

た。『さあ、ベツレヘムに行って、主が私たちに告げられたこの出来事を確かめよう。』」

そこで、彼らは急いで行って、マリアとヨセフ、そして飼い葉桶に寝かされている赤ん坊を見つけた。彼らがその子を見たとき、この子について告げられたことを人々に広めた。それを聞いた人々は皆、羊飼いたちの話に驚いた。」ルカによる福音書 2:15-18

起こったことすべてがマリアにとって不可解なものであり、この鍵となる聖句は、彼女がこれらの出来事がどのような結末を迎えるのかと案じていたことを示唆しています。数ヶ月前に天使が、彼女に「ダビデの王座」を与えられる息子を産むと告げていたとはいえ、マリアは自分の息子に関わるこの神の計画の全容を、おそらく理解していなかったのでしょう。

さらに、マリアは当時、イエスがおよそ33年後に十字架にかけられ、3日後に死からよみがえり、その後2000年かけて形成されていく信徒たちの集団の頭となることなど、予見できなかったでしょう。これらすべては、人類から罪と苦しみと死を根絶するという究極の目的のためでした。

キリストの階級の一員となるための継続的な努力の一環として、私たちはこの世に同化することを避け、他者によって「普通」と見なされる肉的な快楽に迎合しないよう注意を払う必要があります。それゆえ、次のように記されているのです。「上のことに心を留め、地上のことに心を留めてはなりません。あなたがたは死んでおり、あなたがたの命は、キリストとともに神のうちに隠されて

いるからです。」　（コロサイ3:2,3）。罪ではない多くの行いも、肉を喜ばせるものです。イスラエルの民に与えられた特定の禁止事項とは異なり、新約聖書には「～してはならない」という命令は多く見られません。むしろ、　なクリスチャンとして、私たちは心の中で愛の律法と義の律法の「精神」を全うすることを望みます。ローマ7:6

私たちはこの聖句の現実を体験できることを、まことに祝福されています。「愛する者たちよ。今、私たちは神の子です。私たちが将来どのような者になるかは、まだ明らかになっていません。しかし、彼が現れるとき、私たちは彼に似た者になることを知っています。なぜなら、私たちは彼をそのありのままの姿で見るからです。」ヨハネの手紙第一 3:2